

## 本号のテーマ：「当たり前前の日常を大切に思う」



♪屋根より高い 鯉のぼり  
大きな まごいは お父さん  
小さい ひごいは 子どもたち  
おもしろそうに およいでる

5月に入り大空に悠々と泳いでいる鯉のぼりに、励まされる毎日でした。緑が美しく気候としても過ごしやすい清々しい季節になりました。新型コロナウイルス感染症の広まりで、色々な場面への影響が心配な中ですが、分散登校する子ども達は、とてもうれしそうに見えます。ご近所の2年生の男の子曰く「少しでも学校に行けてうれしい。友達ともっと遊びたい。先生にも毎日会いたい。」とっていました。

子ども達の生活は……。学習は……。健康は……。経済は……。次々と不安が頭をよぎります。「ピンチはチャンス！」とよく言われますが、日常が普通なら、「そうだ！そうだ！」とうなずくところですが、ため息の方が先に出ます。その中であっても明るいニュースや出来事を目にするとうれしくなります。3つご紹介します。

1 先日、テレビで「上を向いて歩こう」プロジェクトについての紹介がありました。早速調べてみました。世界中から、新型コロナウイルスが消え、日常の幸せが戻ることを願ってスタートしたものです。

世界中に閉塞感が漂う今だからこそ「上を向いて歩こう」というメッセージを発信していきます。ウイルスと闘っている方・医療従事者の方・生活を支えて働いてくださっている方・部屋で不安を抱え未来を案じている皆さんに少しでも希望を感じて頂くために何か出来る事はないかの想いで発信しました。坂本九さんの「上を向いて歩こう」をリレー形式でつないでいきます。歌でつなぐ・ダンスをつけておもいをつなぐ企画です。応援メッセージカードを持って世界中の子ども達や人々に想いを送りましょう。世界の皆さんと歌声でつながりましょう。

歌でつながる、しかもネットを通して、知らない人たちと心をつなげる。これからの新しい音楽の一面を学んだと思いました。私も一緒に口ずさみました。

2 フランスのパリの現状を伝えてくれた長野出身の女性がいました。

生活は制限が多くて大変ですが、思いがけない良い効果もあります。マスクの習慣が無かったのですが着用が当たり前になってきました。明るい話題は、人々の団結です。毎日午後8時になると、医療関係者に感謝の意を表すためみんなですべて拍手をします。食事を提供するレストランのシェフや若者が高齢者に代わり買い物をするなど、人々の連帯が生まれました。もう少しがまんです。

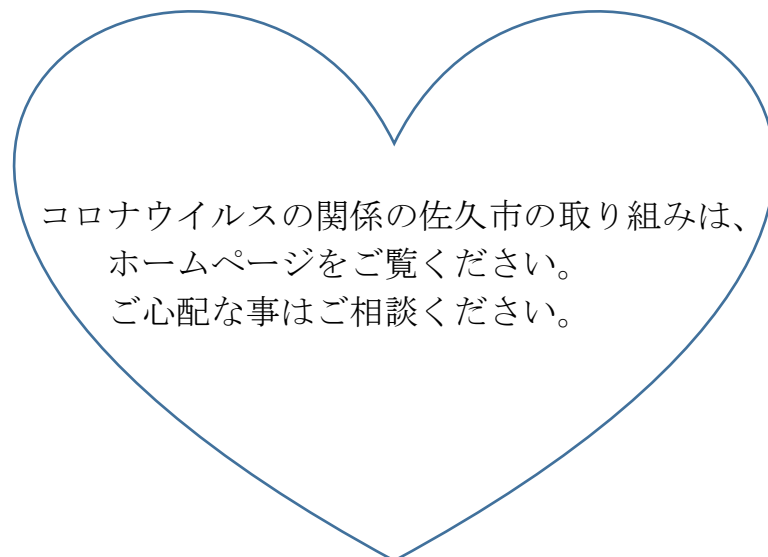
3 日本でも、子どものお手伝いが増えてきたようです。畑にも子どもの姿がみえます。

おじいちゃんの畑で、馬鈴薯とネギを植えるのを弟と手伝いました。収穫の時間が楽しみです。外で遊ぶ時間も増えて、二重跳びなど縄跳びがうまくなった気がします。早く学校が始まって、友達と遊んだり、図書館に行ったりしたいです。11歳の女の子です。家庭科の動画を見つけ、お母さんにミシンの使い方を教えてもらい、マスクを作りました。料理も作りました。友達と会っている話したいです。

けん玉に熱中する兄弟もいました。

大技を身に付けようと毎日2～3時間の練習を欠かしません。けん玉は家でも出来ますが、仲間と一緒にの方が楽しいです。またみんなで集り楽しめる様になってほしいと願っています。

当たり前の生活がどれほど愛おしいものか。皆それぞれの思いがありますが、当たり前の日常が戻って欲しいと願うばかりです。



コロナウイルスの関係の佐久市の取り組みは、  
ホームページをご覧ください。  
ご心配な事をご相談ください。